



創刊 周年

◇このISO14001Newsも4周年を迎えました。昨年前半に休刊期間がありましたが、皆様のおかげでなんとか続けられています。

最近では環境に関する様々なニュースを毎日のようにテレビ、ラジオや新聞、インターネット上で見たり聞いたり出来ます。時代の移り変わりと共に情報伝達の速さはほんの10年前と比べても驚くほどに進歩しています。この10年はインターネットの普及によって、活字だけでなく映像や音声などで毎日情報が家にいながらにして見聞きできる世の中となりました。

このISO14001Newsも最新の情報を取り入れながら皆様にお伝えしていきたいと思えます。

◇5月末に当社が契約している審査機関による第6回サーベイランス審査が実施されました。今年度は、5部署が審査対象となりましたが、次年度は更新審査であるため全部署が対象となります。また、今回の審査によって改善点として挙げられた事項は次回審査までに何らかの改善を実施しましょう。(次ページで今回の審査のまとめを特集していますので確認してください)

過去3年分程度の審査での指摘事項も掘り起こされて質問される可能性も考えられます。過去の資料についても目を通すだけでも良いので一読しておくことも大切です。



じゃがいもの花

(2009年6月撮影:K.Yui)

1. 7～10月に実施する事項

・7月～10月及び11月期に実施/活動する事項です。

月	内容
7月	「環境(エコ)川柳」作品募集開始(10月末まで)
8月	
9月	設備/工程の定期点検と評価 緊急事態への準備及び対応訓練 EMPまとめ(2009年度 第2節:末日)
10月	ISO14001News発行 定期環境管理委員会(月末)
11月	「環境(エコ)川柳」への投票開始(12月中旬まで)

※ EMP=「環境マネジメントプログラム」の略

9月は例年実施している「緊急事態への準備及び対応訓練」があります。緊急事態に備えて手順書の検証を行い、不備や改善点あれば改訂/改善を行いましよう。

後述しますが、昨年末に実施した「環境(エコ)川柳」を今年度も実施したいと思います。昨年投稿された方も、初めて投稿される方も大歓迎です。是非たくさんの作品(川柳)を応募してほしいと思います。今年は募集する期間を長く設定しますので、期限まで思いつくりの川柳を応募いただけたらと思います。更に、作品を展示する期間も1ヶ月以上は設けたいと思いますので皆様の投票をお待ちしております。要領的には昨年同様に進めたいと思います。(詳細は、最終ページにあります)

次年度の審査は更新審査となります。予告された審査日程は、4月に予定されています。例年よりも1ヶ月以上早く審査日が設定されていますので今から記録や報告書など毎回やるべき事は欠かさず実施していきましょう。

本号の内容

P	項数	項目
1	1	7～10月に実施する事項
2	2	第6回サーベイランス審査結果
3-4	3	刊行4周年記念寄稿 清水工場長 中山環境管理責任者
5	4	環境関連トピックス
6	5	第2回 日精電機 「環境(エコ)川柳」募集
	6	親和会ソフトボール大会の結果

印刷配布:ES,B,C,M,D,Q,J,K,EMR,EMRs,EM 専,Ci,Kn,Na (15部)、ネット配信:A,To

日精電機ホームページURL

PC : <http://www.nissei-motor.co.jp/>

携帯(DOCOMO) : <http://www.nissei-motor.co.jp/i/>

2. 第6回サーベイランス審査結果

今年度の審査は当社の都合により2日間行われる予定だった日程を、5月20日（水）1日だけに凝縮して実施しました。審査員は、ここ数年お世話になっています市村吉廣氏でした。

日程は以下の通り実施されました。

時間	被監査部署／内容	出席・対応者
08:45～08:55	開始会議	部署長全員、事務局
08:55～09:10	経営者面談（経営層）	赤羽根専務、清水工場長
09:10～11:05	管理責任者（環境管理責任者・事務局）	中山課長、武者係長、渡辺氏
11:10～12:00	品質保証課	古沢課長
12:55～14:40	製造課／プレス係	油井課長、小林氏／石井主任、柳沢氏
14:45～16:10	総務課／営業課	小林課長／井出課長、中山課長
17:40～18:00	終了会議（部署長全員）	部署長全員、事務局

・下記は、指摘事項（ランクは、全て「改善事項 ○」）です。

NO	功	被監査部署	観察事項の内容	規格要求事項
Icy-01	0	EMR/EM事務局	内部監査が、その目的を達成できたのか、内部監査報告書／不適合報告書、及び年度環境監査指摘事項一覧表のコメント欄に記述されている内容では確認できません。尚、監査の目的はマニュアルにはありませんが、規定には明記されています。	4.4.5 EMSの次の事項を決定する 1)規格及びマニュアルに適合していたかどうか 2)適切に実施されていたか
Icy-02	0	EMR/EM事務局	内部監査チェックシートには各部署に著しい環境影響の作業に従事する人の有無を聞いていましたが、各部署の方はどの様な資料に基づいて答えるべきかを事務局に伺いましたが答えがありませんでした。	4.3.1 著しい環境影響を与える側面を決定する
Icy-03	0	EMR/EM事務局	EMSに要求されている教育訓練のニーズ（新入社員や配置転換者の教育、品質向上や新しい製品の立ち上げのための訓練）が明確に規定されていません。	4.4.2 環境側面及びEMSに伴う教育訓練のニーズを明確にする
Icy-04	0	EMR/EM事務局	顧客の要求に基づいて訓練の記録をトレーナー（指導者）作成のものと同受講者（作業員）作成の2つを作成（様式9と様式32）していますが、その妥当性を再評価することが望まれます。 “最も重要なことは、訓練の目的を達成できたかです”	4.5.4 達成した結果を実証するのに必要な記録を作成し、維持する
Icy-05	0	品質保証課	LJ555の不良処理（半田付け不良）について（1件の不良についてPDCAを廻すとの指示）、PDCAについて実施していましたが、その計画がどうなっているのか（有効性の評価をいつ、誰が、どのような方法で行うのか）が明確ではありません。PDCAの内、PもCもよく分かりません。	4.5.1 鍵となる特性を監視する手順を確立し、実施し、維持する
Icy-06	0	製造課／プレス係	製造課では、バランス調整（時間がかかる）に3人を配置するなどして管理していましたが、環境側面として取り上げることを期待しています。 （ラインバランスが崩れると、製造数量が計画を下回り、納期遅延で顧客にも影響を及ぼす）	4.3.1 組織が管理できる環境側面を特定する
Icy-07	0	総務課／営業課	総務では、燃料・電力。紙・水以外にも、自動車関連費用（ガソリン代、車使用の目的、車使用者、使用時間等）を管理していましたが、環境側面として特定されていません。	4.3.1 組織が管理できる環境側面を特定する
Icy-08	0	総務課／営業課	予防処置として“ストーブの消し忘れ”対策として、ラベルを作成し、貼付されていましたが、それが記録され、MR（マネジメントレビュー）で報告されたことが確認できません。 ※是正処置の状況として水道水の漏れは報告されていた。	4.6 EMSが引き続き適切で妥当で有効であることを確実にする。 MRへのインプットに次の事項を含むこと e)是正処置の状況及び予防処置の状況

※上記は、全部署に共通する指摘です。次年度までに上記指摘事項について改善をしましょう。

※次年度は、更新審査となります。審査員も2名体制で行われますので全部署が審査対象となります。

また、審査する時期が4月上旬であることも予告されていますので、今から準備しましょう。

3. ISO14001News刊行 周年記念寄稿

『雑 感』

取締役工場長 清水 光弘



『ついに来たか。』文章を書くことが苦手な私にこのISOニュースの原稿依頼が来てしまいました。さて、何を書けばいいのだろう。今回は思いついたままを書かせていただくことにします。

当社がISO14001の規格認証を取得してから丸8年が経過しようとしています。この8年間で社員の皆さん個々にはどれ位浸透してきているのでしょうか。

会社では当然のことながら、家庭ではどうでしょう。家庭に帰っても家庭ごみの分別収集が各自自治体で行われていたり、テレビ局がエコについての番組の放送や運動を展開していたり、ニュースや新聞でエコポイントについての話題を伝えたりなどで、仮に会社のISO活動に携わっていなくても毎日少なくとも1回は『エコ』などの環境に関する言葉を目や耳にしているでしょうから全く意識していないということは無いでしょうし、自分には無関係などと思っている社員もおそらくいないでしょう。

しかし、世の中にはいろいろな人がいるものです。社員の中には当然いないでしょうが、未だに道路や空き地などへゴミをポイ捨てる人がいるようです。私もたまに自動車を運転中に前の車の窓から火の付いたタバコが投げ捨てられるのを見かけることがあります。このご時世にこんなことを平気するようなモラルの低い人がどうしているのか、とビックリしますし、腹立たしくもなります。そういう人は家の中でもゴミ箱などを使わない生活環境で育ってきたのでしょうか。たとえ、小さい頃から躾けられてこなくても分別のある大人ならポイ捨てなどしないと思いますがどうでしょうか。昨年のお話ですが、我が娘を連れて花火大会を見に行った時のこと。私たちと反対側の歩道をやはり花火大会を見に行くらしき若い親子連れが話をしながら少し前を歩いていました。何気にその様子を見てみると、なんとその父親は買ったばかりのタバコの封を切り、その包装ビニールをそのまま道路に投げ捨てたのです。そればかりか母親もその行為について何も反応をしませんでした。連れていた子供は3、4歳位でしたが、そんな親に育てられる子供はどんな大人になるのかと心配になってしまいました。

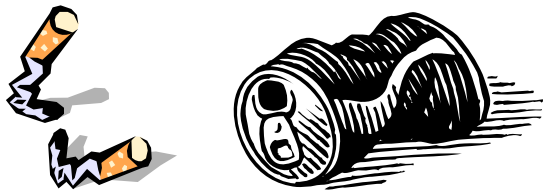
先日、新聞を見ていて小学生の兄弟がゴミのポイ捨て禁止条例の制定を市議会に陳情した、という記事が目にとまりました。どこの市の話かと思って読んでみたら、なんと地元の佐久市の話でした。ニュースでも取り上げられていましたのでご存知の方も多いでしょう。記事によると岩村田小学校に通う兄弟が、月に1回、日曜日に約2キロの通学路のゴミ拾いを続けていて、この1年間に拾ったゴミの中でタバコの吸殻だけでも5223本あり、1リットルのペットボトルに15本分あったそうです。県内38市町村には既に条例があるのにこの佐久市には無いことがわかり、両親と一緒に条例制定の陳情をしたというものでした。以前にも条例制定の話は出たことがあったようですが、市民のモラル向上が先とのことで当市では不採択になっていたようです。今回の小学生の陳情に市議会はどうか対応するかと興味を持っていましたが、このほどの本会議で採択され、条例制定へ動き出したようです。ただ、条例に罰則まで含めるのか含めないのか分かりませんが、もし罰則が無ければ、今まで平気でポイ捨てしてきた人はいくら条例が制定されたからといっても相変わらずのような気がするのでしょうか。変わる人はもっと前からポイ捨てなんかしてませんよね。

かくいう私も禁煙できない愛煙家の一人ですが、今の世の中は喫煙者の肩身の狭いこと。喫煙者は自分の健康を害する恐れがあるのも承知で税金を納めている優良納税者だ、とよく言う愛煙家の勝手な言い分を展開してみても同調してくれるのはやっぱり喫煙者ばかり。一部のモラルの低い人たちのポイ捨てが喫煙者の肩身を余計に狭くしていることをよく考えてもらいたいものです。私は外出して吸う場合は、吸殻入れがあることを確認してから吸っています。携帯灰皿も買ってはありますが、なかなか使いたい時には家に置きっぱなしで用を成さないことの方が多いんです。そのどちらもない場合には吸わないで我慢しています。我慢できるならやめられるんじゃないかな、と自分でも思うのですが、意志が弱いというか、誘惑に負けやすいというか。最近話題になった害の無い電子タバコも奮発して買ってみました。つい先日ポケットに入れたまま洗濯されてしまい、一巻の終わりになってしまいました。

(次頁)

これから先も止められそうにありませんので最低限マナーは守って吸い続けることになるでしょう。

とりとめの無い話を書いてしまいましたが、ポイ捨てに限らず社員の皆さんも「いい大人がみつともない」と言われないよう社会のマナーはこれからも守って行ってください。日精電機の社員として誇れるよう、さすがにISOを取得した企業の社員だと言われるようにお願いをして締めくくります。



—X—X—X—X—X—X—X—X—X—X—

『私のエコロジー雑感パート3』

環境管理責任者 中山 俊明

ISOニュースへの寄稿も今回で3回目になりました。そこで飽きもせず「私のエコロジー雑感パート3」として続編を書くことにしました。

はじめに残念な報告をしなければなりません。前回は登場した我が愛車レ빈は25年目の車検を前に手放すことになってしまいました。ドア下部に空いた穴を修理しようとしたところ穴の内部から錆びた金属粉が大量に出てきて砂山のように地面に積もってしまいました。他にもドア下部には数箇所の穴がすでに空いており、とても素人修理では追いつかない状態で、手放す決断をせざるをえませんでした。

手放す決断はしたものの、我が家の厳しい家計の中では、新車には手が届かず、知り合いの中古車屋に総額20万円という無茶な条件をつけて中古車を探してもらうことになってから約1ヶ月。ようやく代わりの車が見つかりました。ホンダのフィットです。平成14年式、走行距離9.5万キロのFF車です。5万円ほど予算をオーバーしてしまいましたが、値段の割には、内装もきれいで、エンジンの調子も良好でした。

さてこの車、燃費を計ってみてびっくりしてしまいました。なんと19km/リットルという信じがたい数値が出たのです。毎日、片道18キロの長距離を走っているので燃費が良くなる条件だとは思いますが、レ빈では14km/リットルでした。

CVTの最適な制御技術によりエンジン回転数を低く抑えているためと推測されますが、この数値の真偽については、今後も調査することにして、仮に数値が正しいとすれば、通勤等で毎月約900km走れば、14km/リットルではガソリン64.3リットル、19km/リットルではガソリン47.4リットルの消費となり、 $64.3 - 47.4 = 16.9$ リットルの節約、ガソリン1リットル126円とすれば金額で2129円を得たこととなります。二酸化炭素排出量でいえば、ガソリン1リットルは二酸化炭素2.3kgに換算されますので $16.9 \times 2.3 = 38.87$ kgです。1年では466.44kgにもなります。1990年の日本人一人当たりの二酸化炭素排出量は2590kgだそうです。京都議定書の削減目標は1990年度比マイナス6%ですから一人当たりの削減目標では $2590 \times 0.06 = 155.4$ kgと計算されるので、私は余裕でクリアすることになります。

話は変わりますが、最近、電気自動車が発売されました。当面は法人、官公庁、自治体向けのようなのですが、来年4月からは一般向けに販売開始となるようです。そこで電気自動車について少し調べてみました。電気自動車は確かに走行中は二酸化炭素を排出しませんが、まったく出していないわけではありません。二酸化炭素が排出される火力発電で発電された家庭用電源を使用して充電するので、間接的には、二酸化炭素を排出することになります。その量は1kmあたり40gと試算されるようです。ガソリン車で燃費が13.5km/リットルの車では1kmあたり170gなので約1/4程度の排出量になります。もちろん水力、太陽電池、風力等の電気でも充電すれば、排出量は0となり、理想形となるでしょう。ただし、技術的課題はまだ残っていて、そのひとつは航続距離の短さで1充電あたりの走行距離は160km程度のようなようです。また普及には、充電スタンド等の整備や製造コストの低減、電池の更なる改善も必要のようなようですが、技術革新でぜひ実用化してほしいものです。



4. 環境関連トピックス 今回は、エコに関する話題を少し・・・

①佐久市ポイ捨て禁止条例（6月25日と7月1日付けの信濃毎日新聞掲載記事より抜粋）

佐久市岩村田小学校5年の丸山碩（すぐる）君（10）と2年の覚（さとる）君（7）の兄弟が、ごみのポイ捨て禁止条例の制定を市議会に陳情して話題となっている。陳情した理由として、昨年度に毎月、通学路のごみ拾いを続けたが、落ちているごみが減らないためだという。市議会事務局によると、陳情に年齢制限はないが、小学生の提出について「これまで聞いたことがない」という。

小学校に入学したばかりの覚君が、約2キロの通学路にごみがたくさん落ちていることに気付いたのがきっかけで、昨年4月から月1回、日曜日に両親と一緒にごみ拾いを続けた。1年間で拾ったごみは6858個。たばこの吸い殻が5223本で最も多く、1リットル入りペットボトルに詰めると15本分になった。火がついたまま捨てられた吸い殻もあり、火事の原因になりかねないため、2人は「とても怖いと思った」と話す。

市議会への陳情は、定例会最終日の6月30日、本会議で全会一致で採択された。柳田清二市長は閉会后、「条例制定を真剣に考えたい。規制より、機運を後押しする内容がいいのではないかとコメント。

陳情した碩君と覚君は「うれしい。みんながごみを捨てないような条例にしてほしい」と喜んだ。

県廃棄物監視指導課によると、県内では4月末時点で38市町村に同趣旨の条例がある。一方、4月まで条例制定の必要性を検討した飯田市議会は「条例での拘束より市民の啓発が先」との結論を出している。



記事:信濃毎日新聞 2009年6月25日・7月1日

②マイカー通勤は止められるのか？

先頃、長野県庁環境部が今年2月に県内製造業(従業員100人以上)などを対象にした「マイカー通勤に関するアンケート」を実施し、5月にその結果を公表しました。それによりますと、従業員の4人中3人がマイカー通勤者である。また、そのマイカー通勤者のうち通勤距離が2km未満が約6%、5km未満が約31%を占めた。

(アンケートによると、0～2kmは徒歩通勤可能な距離、～5kmは自転車通勤可能な距離となっている)

ノーマイカー通勤デーについては、約11%の企業で実施していると回答があり、実施する月を決めている企業、隔週や毎週〇曜日などに限って設定している企業もあった。長野県としては、県内で排出される温室効果ガスの約3割が自動車から排出されていると算出していることから、県職員を対象としたノーマイカー通勤デーを毎月第2/4水曜日と設定しているようです。(平成17年3月23日～)

当社(本社だけでも)、二輪車及び自動車などのマイカー通勤者の割合は9割を越えていると思います。事務局が独自に調査したところでは、徒歩や自転車などの常時通勤者は5人位だと思います。

地球温暖化防止、CO2削減のためにも「ノーマイカー通勤デー」を設けるのも企業としての役割なのかも知れませんが、そのためには、公共機関などを十分整備する必要があり、結局そういった交通手段を利用するにしても地球温暖化へつながる行為となると考えます。ならば何をしたらいいのか？徒歩通勤にも限度がある！自転車だって長い距離は時間が掛かるし疲れてしまう！・・・やっぱり乗り慣れたマイカー通勤になるのかな。

参考資料:長野県庁 環境部

③漂流・漂着ゴミ

長野県は海無し県である。河川はあるけど、海に憧れ、毎年夏になると海水浴に出かけてはいませんか？それとも、冬の荒々しい海を眺めてはいませんか？実は今、海水浴で賑わうはずの海岸が「漂流・漂着ゴミ」でいっぱいになっているのをご存じでしょうか？

6月末にフジテレビ系の某朝の情報番組で、海岸に流れ着いた漂着物(ライター)について、その出所(韓国)まで追跡取材した模様が放送されていた。その前週にも同様に、山形県の海岸に漂着していたゴミ(ライター)にあった電話番号を元に新潟県まで追跡取材していた。(徹底した取材なのか、暇なのか・・・)

漂着物が日本国内のゴミである場合は、訴える余地があるのかも知れないが、海外品となると困るようだ。

ある資料によると漂流・漂着ゴミは、太平洋側では、主に7割以上が中国、3割が韓国からのゴミ。日本海側では、逆に7割以上が韓国、3割が中国。ロシアからのゴミのものも少々あるらしい。

では、海無し県の我が長野県は海岸がないから漂流・漂着ゴミは無いだろうと高をくくってはいませんか？

平成18年度の調査では、千曲川沿岸には用水などから流れてきた生活ゴミや不法投棄されたと思われる家電製品や自動車など様々なゴミがあるようです。身近な河川にもそういった漂流・漂着ゴミあるいは不法投棄されたゴミが溢れているのを知っておきましょう。

参考資料:Wikipedia(漂流・漂着ゴミより抜粋)、国土交通省

5. 第2回 日精電機「環境(エコ)川柳」募集

昨年末に実施して好評(?)だった環境川柳を今年度も実施したいと思います。

今回は作品の募集期間を長く設け、作品への投票期間も長く設定します。各賞につきましてもこれから会社側と交渉していきますが、副賞を用意できたらと思っています。ただし、今後の景気具合により副賞が無い場合も考えられます。その場合でも賞状授与式は行いたいと思っていますので、皆さん作品をたくさん応募してください。(詳細につきましては別紙のチラシを参照下さい：部署内に回覧して伝達してください)

- 1) 川柳の内容：五・七・五調で、環境に関する川柳で有ればどの様な内容・文面でもかまいません。
ただし、投稿者のオリジナルであること。前回作品の再応募は基本的に不可とします。
※尚、作品の性質によって事務局で判断して川柳と標語に分ける事があるかも知れませんがご了解下さい。
- 2) 作品募集期間：7月末～10月31日
- 3) 作品への投票期間：11月初旬～12月中旬(前期、後期に分けて1人5作品まで投票：要検討)
- 4) 大賞発表：年末の全体終礼(予定)
- 5) 各賞予定：投票獲得数による・・・大賞、準大賞、投票3位、その他(工場長選賞、環境管理責任者選賞等)

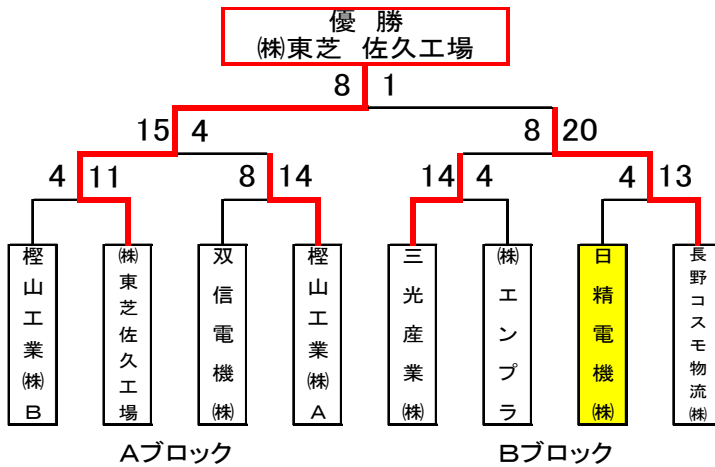
6. 親和会ソフトボール大会の結果

佐久市工場団地親和会主催の第30回親和会球技大会(ソフトボール)が、7月11日(土)に長野県立駒場公園の多目的ひろ場にて開催されました。試合はひろ場を南北に分けて2面で開催されました。

◆参加企業：7社 8チーム [榎山工業(株) A 榎山工業(株) B (株)エンプラ 三光産業(株) 長野コスモ物流(株) (株)東芝佐久工場 双信電機(株) 日精電機(株)]

◆開会式では、親和会会長である日精電機(株)中川正社長より挨拶がありました。

◆大会トーナメント表と試合結果：日精電機は、Bブロック第2試合で、長野コスモ物流(株)と対戦しました。



◇試合結果(スコア表)

Bブロック 1回戦 第2試合
(試合開始：8時50分)

チーム	1	2	3	4	5	計
日精	0	0	3	0	1	4
コスモ	2	0	10	1	×	13

◇残念ながら試合には負けてしまいましたが、一部の選手たちは6月中旬頃より昼休みや夕方などにキャッチボールと守備練習を行い、大会の前週(7/3)には開催場所である駒場公園を利用して半日練習で汗を流しました。その模様は、まるで少年野球か学生の部活延長かという光景でした。

大会当日は、薄曇りで絶好の運動日和となりました。選手の皆さんは、各々練習の成果を遺憾なく発揮して活躍されました。今回主将(監督)という大役を務められた伴野主任ご苦労様でした。

優勝チームは東芝でした。Aブロックで常勝の榎山工業を破り、決勝では当社が対戦した長野コスモ物流に打ち勝つての優勝となりました。おめでとうございます。

参加された選手の皆さん。応援に駆けつけてくださった皆さん。各会社の参加者及び応援の皆さん。お疲れさまでした。(今回、News用にとっと思って写真を撮って掲載する気でしたが撮影するのを忘れてしまいました)

編集後記

◆夏です。と言っても、この半年以上に亘る景気の冷え込みにより懐具合は真冬並。いや、もはや氷河期を迎えてしまっている。景気にも早く暑い夏が訪れてもらいたいと願う。

さて、今号は刊行4周年記念と題して久々に寄稿文をいただきました。ありがとうございました。

◆次号も情報満載でお送りします。

◆ 次号：通巻15号 10月発行(予定) ◆

企画・作成・編集：武者 弘文(副環境管理責任者)

発行責任者：中山 俊明(環境管理責任者)

発行：日精電機株式会社 ISO14001 環境管理事務局

©NISSEI DENKI CO., LTD.